西東京三田会

－News Letter 31－　（2024.1.1）

西東京三田会ホームページ　http://www.nishitokyo-mitakai.net/

原会長年頭のご挨拶

西東京三田会の皆々様、明けましておめでとうございます。
2024 年、干支では甲辰（きのえたつ）の新年をお元気で迎えられたことと存じます。

昨年までの 3 年間、2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症の猛威により、国の内外を問わず、感染防止のため各種行動が制限されました。当三田会においても、数々の催し事は控えることを余儀なくされておりました。漸く昨年 5 月に鎮静化された新型コロナウイルス感染症は、5 類感染症に移行され、全国で多岐にわたる催し物が復活されて、社会の様相も元気を回復してまいりました。当三田会では、いち早く総会、懇親会をはじめ各サークル活動等の催し物を再開し、多くの会員の出席のもとで、相互の交流を積極的におこなってきました。

11 月 11，12 日には第 20 回西東京市民まつりが 4 年ぶりに開催され、多数の見物客で賑わいました。当三田会も、今年度の計画通り出展し、新たに 10 名の方々が加入していただけることになり、多大な成果を上げることができました。

今年 2024 年は、当会の目的である「会員相互の親睦と相互扶助を図るとともに地域社会に貢献する」ことの更なる充実を図って参りますが「新しい会員、特に女性層と若年層の会員加入を促進すること。関係団体、地域社会との交流の拡大と慶應義塾大学発展への貢献。サークル活動の充実と、新たなサークル活動の立ち上げ。さらに楽しくなる会の構築。」等の課題もあり、これらの課題を具現化することを目標としていきたいと考えております。

令和 6 年 1 月 21 日（日）に新年会が開催されます。会員相互の親睦を深め西東京三田会と慶應義塾大学の今後の更なる発展を語る場として、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

冒頭の干支での甲辰は、「甲（きのえ）は積極性、発動性の始まりを表し、木の成長力や柔軟性を象徴しており、辰（たつ）は龍を表し、自然万物が振動し、草木が成長し、活力が旺盛になる状態を表しており」この干と支が重なった年です。干支での年は、60 年に一度巡ってきますが前回の甲辰の 1964 年は、アジア初の東京オリンピックが開催され、東海道新幹線の開業等がありました。日本が復興を遂げ高成長に向かう時代の象徴になりうる年でもありました。

西東京三田会も 2024 年甲辰の年で、目標の具現化に向けて、大きく飛躍することを皆様方とともに経験したいとおもっております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

市民まつりでの新入会員を紹介します

11 月 11 日、12 日の二日間にわたり開催された「西東京市民まつり」に当会も出店し、たくさんの方々にお立ち寄りいただきました。お立ち寄りいただいた方から 10 名の方々が新たに当会に入会してくださいましたので、この場をお借りしてご紹介いたします。

・神田 秀治 さん　S53 義塾高校
・匂坂 重之 さん　S63 商学部
・匂坂 美喜子 さん H1　商学部
・清水 一彦 さん　R3　商学部
・中島 聖尉 さん　H19 総合政策学部
・新里 るり さん　S54 文学部
・樋口 貴久 さん　H3　商学部
・森川 光城 さん　H9　経済学部
・渡部 敏行 さん　R2　経済学部
・渡邉 秀夫 さん　S39 文学部

これから開催される様々な活動に積極的にご参加いただき、親睦を深めていただけることを期待しております。

事務局 横田均（H1 政）

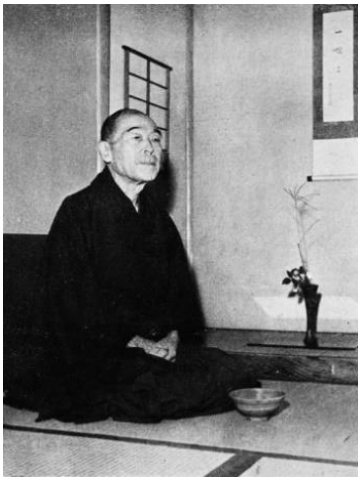
幻の小金井キャンパス

小金井から矢上に引き継がれたバトン

令和 6 年（2024 年）が幕を明けました。ここ数年、私達が手にすることが出来る新技術には目を見張るものがあります。恐らく今年も、数多くの新技術が私達を愉しませ、そして私達に多くの可能性を導いてくれることと思います。

実は一昨年（2022 年）は義塾理工学部が矢上キャンパスに移転して 50 周年を迎えました。矢上キャンパスに移転する以前、理工学部の前身である義塾工学部は、戦中・戦後の混乱期に数奇な運命を辿りました。恐らく、現在の学生の多くはそうしたことを知らないかもしれませんし、私達塾員でも他学部出身者はそうしたことを知らない方も多いかもしれません。NL の誌面から、そうした理工学部の変遷について考えてみたいと思います。

福澤先生は自伝の中で、「教育の方針は、数理と独立」と記され、自然科学分野の教育の重要性を説いていらっしゃいました。1933 年に就任された小泉信三塾長は、理工系学部の設立を重要な懸案事項と捉えていましたが、新設学部、取り分け理工系学部の新設には、莫大な資金が必要となり、それが設立への高い壁となっていることも熟知されていました。塾長がそうした構想を持たれていた頃と時を同じくして、王子製紙株式会社の会長であり、当時「製紙王」と呼ばれていた塾員の藤原銀次郎氏は、将来の日本の発展には、高度な技術力を有する人材の育成が重要であり、私財を投じてでも工業大学の設立が必要であると考えていらっしゃいました。



同じ理想に燃えていた 2 人は協議を重ね、塾長が学長として教育面の礎を築き、そして藤原氏が理事長として経営基盤を構築することで合意し、氏が 800 万円の私財を投じて 1939 年に「藤原工業大学」を設立されました。当時は、大学予科、応用化学科、機械工学科、そして電気工学科からなるもので、日吉キャンパスにて産声を上げることとなりました。然しながら、設立当初から、将来的に藤原工業大学は慶應義塾との合併が約されており、教職員の交流や制服等は、両者共通のものにする等の配慮がなされていました。

終戦の前年（1944 年）、当初の約束に沿い、藤原工業大学は慶應義塾に寄付され、正式に慶應義塾大学工学部が発足しました。然し、終戦間際には、日吉キャンパスが軍に接収され、その後の空襲に因り 8 割が消失する不幸に見舞われます。また、戦後は GHQ に依りキャンパスが接収され、工学部は目黒校舎（学部）、登戸校舎（予科）、溝の口校舎（学部）応用化学科志木分室等に分かれての分散授業を余儀なくされる厳しい戦後混乱期を経験しました。そうした不便を解消するために、武蔵小金井駅南側に位置する横河電機製作所工場跡地に、1949 年「工学部小金井キャンパス」を整備して移転することになりました。それは丁度義塾工学部創設 10 年目に当たる年でもあり、そ

の後 23 年間、小金井キャンパスでの教育と研究は、日本の高度経済成長を強力に支え続けることとなりました。

　些か前振りが長くなってしまいましたが、今回はお二人の理工学部出身者の方々とお話をさせて頂きたいと思います。今回は小金井校舎にて勉強をされた最後の年代である宮本さん、そして矢上に移られてから入学された編集委員でもある高橋幸三さんに入って頂き、小金井キャンパスのこと、そして新しく整備された矢上キャンパスのことを伺いたいと思います。

【司会】先ず、ご両名の専攻と卒年から伺いたいと思います。

【宮本さん】昭和 46 年卒の計測工学科です。理工学部ではなく工学部の計測工学科です。聞きなれない学科名と思いますが、それもそのはず今はありません。1996 年頃の学科改組で消滅しました。現在は主に物理情報工学科に流れが引き継がれていると聞いています。
私が計測工学を目指した理由は単に入学試験の倍率が低かったからです。入学試験が学科ごとだったので、「蛍雪時代」情報で倍率の低い学科を選びました。
では計測工学科とは何なのか。自動制御やコンピュータのことを学ぶ学問らしいとは思っていたものの当時自分ではよく分かっていませんでした。今でもすんなり説明できません。後年、ネットで慶應義塾大学の計測工学科を説明する WEB を見つけました。そこにはこうありました。「計測工学とは物理・化学・数学、そして機械・電気・電子をも方法論的に統合化した総合科学技術である」。「そうだったのか計測工学」です。

【高橋さん】私は昭和 49 年卒の機械工学科卒業です。勿論工学部出身です。

【宮本さん】当時工学部の学科は 5 つありました。機械、電気、応用化学、計測、管理です。それらの英語の頭文字を取って MECIA と称していました。メシアとはキリスト教では救世主のことですが、技術の救世主たらという意気込みが込められていたのかもしれません。卒業アルバムのタイトルも MECIA だったと記憶しています。

【司会】なかなか面白いですね・・・。今の学科に直すと・・・、時間が無いので、先に話を進めましょう。

【司会】それでは、先ず、宮本さんに小金井キャンパスの思い出を語って頂きましょう。宮本さんは小金井キャンパスの最後を経験されたわけですよね？

【宮本さん】1 年目は日吉で学んで 2 年目から小金井でした。1 年生の年度末に進級できることを確認すると、あわただしく新たな下宿先を探し、それからほどなく級友が運転するトラックの助手席に乗り込んで引っ越しました。学校に近すぎるのも行動範囲が狭くなるようで、新たな下宿

は国分寺市に決めました。最寄り駅は武蔵小金井から2つ目の国立でした。（当時は西国分寺駅がまだできていませんでした）小金井キャンパスは言うまでもなく田舎でした。
小金井市と府中市との市境に近い小金井市前原町にあり、武蔵小金井・府中間を走るバスの「慶応工学部前」が最寄りのバス停でした。通学にはバスも利用しましたが、武蔵小金井駅から歩いたことが多かったです。

【司会】あっ、そうですね。教養課程は日吉ですね。なるほど・・・。

【宮本さん】工学部敷地の正門を入って左手にあった事務棟の前に小さな車回し（ロータリー）がありその中に藤原銀次郎氏の胸像がありました。この胸像は矢上に移されたようですが、矢上で見たことはまだありません。校舎はほとんど平屋の独立した建物でした。いくつかの教室は外から直接入ることができ、ドアが前後に2つありました。廊下を歩いて教室に入るというような教室はまれでした。工学部の敷地は横河電機の工場跡地だったとのことで、建物も工場だったものをそのまま譲り受け、使ったようです。

工学部の前身の藤原工業大学は日吉で誕生しましたが、戦時中は軍に、戦後は米軍に接収されたため本拠地を失い、流浪の学び舎となったそうです。そして日本各地、登戸や溝の口などを転々としやっと安住の地となったのが小金井だったとのことです。小金井では20年ほど続いたことになります。敷地の奥には生協売店と生協食堂があり昼食はほとんどそこで取りました。正門近くの校外にはラーメン屋が1軒、蕎麦屋が1軒ありそこで食事することもありました。因みに蕎麦屋は工学部日吉移転後も何年かそこにあったようですが、ラーメン屋は工学部について日吉地区に移転したとのこと、その後の消息は知りません。敷地奥の生協食堂の付近に散髪屋もありました。散髪屋さんは毎日ライトバンで家族および白い犬とともにやってきて営業していました。私はよくそこを利用しました。また食堂の近くには2階建てのサークルの部室棟があり、それとは別に平屋の工学部新聞会の部室小屋がありました。私は2年生の1年間そこに所属し新聞づくりをしました。あまり売れた新聞では無かったですが（無料だったかも）、学生課からデータを出して貰い発行する就職内定先特集を出した時だけは、奪い合うように持っていかれました。構内の一画にはグランドがあり自由に使えたので、サッカーや野球（フライのノック等）が行われていました。野球の場合、場外ホームランを打つと隣接する多磨墓地（多磨霊園）に入ってしまうので、境界の柵をくぐってボールを探しにいくことがあったようです。

小金井キャンパスには、実は府中寄りの少し離れたところに飛び地のようにもう一つ敷地がありました。計算機センターがあり、管理工学科があったと思いますが、あまり行った記憶はありません。ただ大き目の教室があったためか、工学部30年記念に三田から池田弥三郎氏が来て面白い講演をされた時はそこで聞いたことを覚えています。

【司会】確かに藤原銀次郎氏の胸像は、矢上キャンパスの25棟の脇に存在していますね。

それと、宮本さんはかなり小金井キャンパスに思い入れが強いようですが、小金井キャンパスが矢上に移転する、即ち小金井キャンパスの歴史が幕とな

ることを知った時、どのような気持ちになられましたか？衝撃が強かったように感じますが・・・。

【宮本さん】工学部はもともと日吉にあったということを聞いていたので、移転するならそれはそれでいいんじゃないかと思っていました。当時は学園紛争が盛んな時期で、学生運動家の連中は何でも反対の例に漏れず「日吉移転反対、日吉移転粉砕」を主張していました。立て看板もありました。（当初は日吉移転と呼び矢上の名前は出てなかった）でもそれは小金井キャンパスが無くなるからいやだという理由ではなく、カリキュラムが合理化され資本主義搾取社会が強化されるとかのよく分からない理由だった気がします。因みにこの時代、各地の大学で所謂学園紛争があり、封鎖や休学などがありましたが工学部では、少なくとも計測のクラスでは 1 回のストもなかったです。クラス討議に授業をつぶしたことはありましたが。

【司会】なるほど、工学部ではストどころではなかったということでしょうか。それだけ学生は実験等に気合が入っていたというか。

　それでは高橋さん、矢上キャンパスの黎明期に在籍されていた訳ですが、高橋さんから見て、小金井キャンパスはどのように映っていらしたのですか？恐らく小金井には無かったような実験設備等も揃っていたと思うのですが。

【高橋さん】小金井キャンパスから移転してきた事は知っていましたが、全く知識が無く当時の事を見聞きした経験も有りません。前身が藤原工業大学で小金井に有ったと思っていました。研究室が新しい室で指導教授も外部から来られた先生と言う事も有るかもしれません。

【司会】あ～っ、そういうことですか。新しい矢上のキャンパスが高橋さんにとっては総てなのですね。

【高橋さん】そうなんです。又、4 年次はくじ引きで教授の出身である某国立の研究所に応援に行っていた為に矢上台には、ほとんど行っていなかったと言う経緯も有ると思います。

【司会】なるほど・・。確かにそういうことも有るかもしれませんね。取り分け工学部の方々にとっては、そういうことも影響しているかもしれません。
　それと、確か高橋さんは志木高出身でしたよね？

【高橋さん】そうです。群馬出身で父親に志木高の寮に入れられました。

【司会】そうすると、嘗て戦後期に、応用化学科の分室が志木にあったことはご存知でしたか？

【高橋さん】応用科学科志木分室なんて言葉は聞いた事が有りません。広い敷地に校舎と寮とクラブの練習の往復の日々でも、意識した事は無いですね。

【司会】確かに志木高のキャンパスは広いですから、戦後の或る時期に応用化学科志木分室があったことなど、当時の志木高生はご存じなかったのでしょうね。

【司会】それでは、宮本さんに伺いたいのですが、伝統と歴史に幕が降りた小金井キャンパス出身者として、新装矢上キャンパスをどのようにお感じになられましたか？「羨ましい」とか「恵まれた環境だ」と感じられましたか。

【宮本さん】研究室の同窓会が開催された機会に矢上キャンパスに行ったこともありますが、綺麗な建物になって設備も整い、今後の発展が期待できるとは思いました。しかし、自分の時代に移転に間に合わず羨ましいといった気持ちは無かったです。

最近は、名古屋、大阪など西の方へ新幹線ででかける時、東京を出て最初のトンネルを通過すると、この上が矢上台だと思うような、新しい記憶がかたち作られました。

【司会】私も新幹線で矢上を通る度に、宮本さんと同じ気持ちになりますね。
逆に、小金井キャンパス、そして工学部としての自慢、若しくは誇りを教えて頂けますか。

【宮本さん】一時代を小金井という他の学部から隔離された「僻地」で一緒に過ごしたために生まれた仲間意識はそれなりにあったと思います。特に計測工学科は1クラスだけの60人くらいの、一番小さい学科だったこともあり、2023年のクラス会では24人集まりました。

【司会】それは凄い集まりですね。東京以外の方々も多く集まられたのでしょうね。

それでは、同じ質問を高橋さんにお伺いします。矢上キャンパス、そして工学部としての自慢、若しくは誇りを教えて下さい。

【高橋さん】私の場合は、少々宮本さんとの思いが異なります。在学4年の時に外部の研究所に通っていた為、卒論で厳しい指導を受けたとか実験で徹夜したとの記憶が無く、残念ながら研究室とか学校といった思い出は非常に薄いのが実感です。

やはり4年次に外部の研究所に通っていたことが、私の大学時代の思い出に大きく影響しているのだと思います。

【司会】それでは、お二人に同じ質問をさせて頂きます。現役の理工学部学生、院生、そして若い世代の学生に対してコメント、若しくはアドバイスがあればお願いしたいと思います。先ず、宮本さんからお願いします。

【宮本さん】なんでも興味を持って熱中したらいいと思います。キャンパスが小金井にあった時代と違い、逆に日吉の他学部の仲間ともいい交流を持てるので、それを生かしたらいいと思います。

【高橋さん】在学中の 4 年間が今後の自分の生き方や人生の方向付けを行う貴重な時間であるという自覚を持って勉学に励んで貰いたいたいと思います。時間を戻す事は出来ないし、まずは自分の目標をしっかり定めていろいろな経験を積むことですね。

【司会】お二人ともとても素晴らしいことを現役の学生達に向けて発言して下さいました。有難うございます。

それでは、最後に折角の機会ですので、一言付け加えてお話を頂けるのであれば、是非お願いしたいと思います。

【高橋さん】4 年の時に国の研究機関に行った時の感想は、メーカー勤務は単調で変化に乏しい毎日だなと感じた事です。1 年の有期と言うお手伝い的な日々の作業でしたからそう思ったのがきっかけかもしれませんが、建設業に入社し施工担当の勤務は日々の変化にあふれた刺激的な日々でした。東京から関西に転勤しその後は中近東の作業所も経験しましたが、今思えば厳しかったけれど楽しかったと言う感想です。現状維持とか守りに入らずに「チャレンジ」を心がけたら視点が変わると思いますし、若さの特権だと思います。

【宮本さん】高橋さんが凄くまともなことをお話されたので、私は小金井キャンの思い出の話を少しだけしたいと思います。学校から武蔵小金井駅までの通学路の途中には、雀荘が 1 軒あったぐらいで学生街らしい雰囲気は皆無でした。飲もうというときは吉祥寺のコンパにまで出掛けていたと思います。コンパというのはその頃の飲み屋の業態の一種を表す言い方です。通学路で武蔵小金井駅に近い方には、パチンコ屋や書店は数軒あり、よく寄りました。そのうちの 1 軒は書店の奥がパチンコ屋でした。反対側から入るとパチンコ屋の奥が書店でした。パチンコ玉で書物がゲットできるので、欲しい本がありパチンコで取った覚えがあります。中央線が高架になって今では無くなりましたが、武蔵小金井駅の脇には悪名高き「開かずの踏切」があったこともあり駅の北側にはあまり行きませんでした。

通学路の途中には自動車学校もありました。3 年生と 4 年生の間の春休みにそこに通って運転免許を取得しました。「よど号」ハイジャック事件の一報もこの自動車学校の時間待ちの待合室のテレビで見ました。時代背景はそんな頃です。70 歳を過ぎると運転免許更新に実技講習を受けることが必須になります。任意の自動車学校を選べるので、自宅の最寄りの自動車学校でもいいのですが、前回は小金井のこの自動車学校を選んでしまいました。この街が引きつける懐かしさがあるからかもしれません。来月（12 月）の 2 回目も小金井自動車学校を選んだので、また免許取得時の懐かしいコースを運転します。

工学部が移転した後、跡地は大学の運動場になりました。「慶応工学部前」だったバス停も「慶応グランド」に変わっていました。慶應義塾のゆかりの場所が近くに残ったままで良かったと思っていましたが、その後、住宅供給会社に売られマンションが建てられることになりました。土地を売った時、敷地から環境によろしくない物質が掘り出されたそうです。古き時代の学生実験

の名残だったのでしょうか。その処理を終え新しい建物に引き継がれると、土地の記憶からも工学部小金井キャンパスは消えてしまったようで若干の淋しさを覚えました。

【司会】確かに、一つのキャンパスがその使命を終えて幕を降ろすことは、言いようのない寂しさを感じますね。でも、丁度、宮本さんから高橋幸三さんにバトンが引き継がれて、小金井から矢上台にキャンパスが移った訳です。そう考えると、慶應義塾の工学部・理工学部の歴史は脈々と生きているように感じます。宮本さん、高橋さん、本日は貴重なお話を沢山して頂いて有難うございました。当会にも多くの工学部、理工学部の出身の方々が在籍されていらっしゃいます。初めて耳にするような話も出てきたかと思います。これを機に、改めて工学部、理工学部の思い出話が出来ればと思います。

＊＊

対談後記

義塾の理工学部の前身は、上述のように藤原銀次郎氏と小泉信三塾長が創り出した工学部でした。後日、宮本さんから、藤原銀次郎氏は王子製紙で財を成したものの、子どもに恵まれなかったため晩年夫婦で、養子でもとって家系を継いでもらおうという話もあったとのこと。しかし財産目当てで来る人がいてもつまらないからと、学校を作って学生を我が子のように考えようと決めたのが、藤原工業大学創設のきっかけだと読んだことがある旨説明を受けました。宮本さんご自身が、感慨深い話ですが、今では出典を確認できませんとのことでした。

矢上キャンパスに移ってから、81 年に数理学科、物理学科、そして化学学科を増設し、理工学部へと発展し、その後も 96 年には電子工学科、物理情報工学科、システムデザイン工学科、そして情報工学科を増設しました。02 年には生命情報工学科を、そして 20 年には電子工学科を電気情報工学科へと改組し、名実共に日本を代表する理工系学部へと進化を遂げております。

理工学部、理工学研究科は、新川崎タウンキャンパス、殿町タウンキャンパス、そして鶴岡タウンキャンパスと共に、様々な研究に取り組み、日本発の優秀な研究を実現すべく取り組んでおります。

開催されたサークル活動等を紹介します

2023 年 10 月から 12 月に開催されたサークル活動等をご紹介いたします。
様々なサークル活動が復活し、活発に活動しています。

10 月 10 日カラオケ会が開催されました

10 月 10 日、本年 3 回目、スナック JJ で 2 回目となるカラオケ会が開催されました。
歌好き猛者たちが 3 時間、飲み放題・歌い放題で、みなさんゆったりと歌いまくりました。

本日流れた曲は下記 42 曲でした。
石狩挽歌、アメリカ橋、狂った果実、明日の詩、宗谷岬、愛の終着駅、風立ちぬ、琵琶湖就航の歌、黄昏の銀座、なごり寿司、マイウェイ、赤いグラス、涙そうそう、逢いたくて逢いたくて、想い出のサンフランシスコ、キエンセラ、高校三年生、カツベン節、江差追分風の街、南国土佐を後にして、手紙～拝啓 十五の君、グッドバイ・マイラブ、いつでも夢を、島唄、クラブジェールのママ、人生の扉、銀座の恋の物語、雨に咲く花、赤いハンカチ、想い出のサンフランシスコ、TSUNAMI、とんぼ、カスマプゲ、東京ナイトクラブ、月亮代表我的心、ラブ・イズ・ア・メニー・スプレンドアード・シング、花笠音頭、瀬戸の花嫁、島田のブンブン、YELL!十六番目の君、粋な別れ、長い夜

参加者は、牛島康朗、大内俊、西野弘文（小平三田会）、高梨勇一、原洋一、樋口明朗、皆川雅紀、宮本敬一の 8 名でした。

また、本会にて西野さんが西東京三田会への入会を表明してくださいました。

樋口明朗（S43 経）

10 月 15 日麻雀の会が開催されました

令和 5 年度 3 回目の麻雀の会が 10 月 15 日（日）に行われました。

この日は午前中冷たい雨が降り、午後から雨は上がりましたが寒い一日でした。

その中でいつものＰジャンに 12 人が集まり、3 組で半荘 3 回の熱戦が繰り広げられました。参加者は伊勢尚一、牛島康朗、栗原幸雄、高梨勇一、宝井繁夫、直井徹也、原護、原洋一、堀進、森茂樹、横田正満、吉田正輝の 12 名。　森茂樹氏は初参加、直井氏は久しぶり。

1 時間半のゲーム 3 回で、横田正満氏が＋98 でぶっちぎりの優勝。2 位が原洋一、3 位伊勢尚一の各氏でした。

次回は 12 月 10 日（日）13 時から。皆さんの参加をお待ちしています。

原洋一（S46 法）

10 月 15 日連合三田会大会に参加しました

予想されていた通り朝からひどい雨。
報じていたように 9 時には塾高 107 番教室に拠点を準備しました。
しかしなんとか「飲める」室内スペースがないかと横田幹事が雨中で奔走。
第 4 校舎内に特別にスペースがあることを突き止めました。
107 番教室には移動場所と最後に原状回復する旨黒板に大書して移動。
午後 2 時頃には雨も止み、記念館前も活気を回復してきました。
しかし私たちは敢えてそちらへの移動はしません。
日本酒・ワインたっぷりいただきました。
（写真はビン・缶整理した後です）
ブース訪問者は、朝 10 時頃には古賀卓夫、お昼前後には添田由夫・渡辺康生・佐藤貢一（卒 50 年）が順次立寄り、終盤には宮本敬一・行田健二も立寄り、早朝からの準備役、樋口明朗・横田均と合わせて 8 名。
これほどの賑わいは珍しい程でした。

樋口明朗（S43 経）

10 月 16 日～22 日
写真・作品展が開催されました

令和 5 年 10 月 16 日から 22 日まで、柳沢公民館ロビーで第 18 回西東京三田会写真・作品展を開催しました。

当三田会では、文化的な活動として、会員とその家族の日頃の創作活動の一端をご覧いただくことを毎年行っています。

趣味の写真を始めとしてアクリル画、油彩画、水彩画、日本画、ボタニカル・アート、版画に自費出版物などを加えて４０数点余りの多様で個性的な作品を展示しました。

今回は早稲田大学西東京稲門会、慶應義塾大学杉並三田会の方々や西東京市日中友好協会を通じて東京国際ドリームアートコンクールへ参加した中国の児童たちの作品も寄せていただきました。

初日に内覧会で作者から作品に込められた思いを伺い、近隣の公民館活動や図書館利用のために来られた方々にも説明しました。

最終日に６名で打ち上げ会をやりました。

高橋信一（S47 工）

10 月 20 日グルメ会「谷中・根津千駄木界隈の江戸情緒を味わいながらの散歩と B 級グルメを食べる会」を開催しました

谷中・根津・千駄木界隈の江戸情緒を味わいながらの散歩と B 級グルメを食べる会を 10 月 20 日（金）に行いました。

少し汗ばむ天気が良く、散歩日和でした。

参加者は皆川さん、樋口さん、牛島さん、大内さん、横田さん、小笠原、吉川さん、吉川さんの奥様の 8 名で、皆川さんの案内でゆっくりと観音寺の築地壁で集合写真を撮り、幕末の志士山岡鉄斎、佐生亭円朝などのゆかりの地である全生庵に寄ったりしながら、夕方根津の串揚げ屋さんで楽しく懇親会を行いました。

小笠原寿男（S57 経）

10 月 28 日神宮野球応援会を開催しました

2023 年東京 6 大学野球秋季リーグは最後の慶早戦を迎える前に慶・明が勝ち点 4，早が勝ち点 3 なるも勝率が高い、まさに、勝ち点を取った方が優勝という天王山。そして、結果は 1 敗後 2 連勝し 4 季ぶり 40 度目の優勝！！

2 戦目、10 月 29 日は、1 回に連続適時打で 2 点先取し 2 投手で零封。

3 戦目、10 月 30 日は、3 回に 2 ラン、7 回にソロなど攻勢を続け最後まで早稲田に主導権を渡さず勝ち切りました。

神宮野球応援会は第 1 戦目、1 月 28 日（土）に設けられました。

どうも応援会設定日は歯がゆい敗戦が多いようです。

春季はヒット数が大きく上回るのに残塁の山で敗戦、今回は 9 回にやっと逆転したのにその裏再逆転されサヨナラ負け。

しかし、神宮のあの青天井・秋晴れのもと、普段会うことが少ない会員に遭遇する、よい懇親機会です。

参加者は稲月喜一、稲月充子、佐藤貢一、行田健二、豊山智明、そして内野席から伊勢尚一の６名。もしかしたら他にもこの大観衆の中に居られた方もいたかもしれません。

稲月さんご夫妻は、第 1 戦の悔しさをバネに第 3 戦にも赴き、優勝を味わった由です。伊勢さんも多分。そしてそれは佐藤さんについても同じでした。完全優勝おめでとう！でした。

樋口明朗（S43 経）

優勝がかかった慶早戦観戦記

2023 年 5 月の春季に続き、10 月 28 日土曜日に早稲田との秋季リーグ戦 1 回戦を応援してきました。春の早慶戦は、何年ぶりかで「慶應、早稲田ともに優勝が関係ない慶早戦」であり、緊張感に欠けてはいたものの気楽な観戦が出来たとも思えたのですが、今回は逆に「勝ち点を挙げた方が優勝」という応援側も締まらざるを得ない白熱した状況でありました。

展開は、序盤が息詰まる投手戦で、「先取点を取ったほうが有利か」と思っていたら 5 回裏に早稲田が先制し、慶應打線は 8 回まで 0 点に抑えられる負けパターン。ところが、9 回表の慶應攻撃時に早稲田内野陣の守備の乱れがあり慶應が 2 点を挙げ、「まだ全く安心はできないが、勝てるかも知れない…」と考えた最終回に四球と連打で逆転されてしまいました。

しかしながら、これまでも「私が土曜に観戦すると負けてしまうが、2 回戦、3 回戦で勝ち、勝ち点は挙げる」という妙なパターンが何度も起きており、今回も翌日日曜そして月曜と連勝することでのリーグ優勝の達成をネット情報で知ることができました。

さらに、11 月 20 日には明治神宮大会・大学の部において、決勝で強豪・青山学院に勝利することでの優勝を達成。今年の野球部は「高校が全国優勝、大学が六大学リーグ戦優勝と神宮大会全国優勝」という素晴らしい結果を収め、私としては、「甲子園で活躍した高校の 2・3 年生メンバーが、大学野球部で躍動してくれれば、リーグ戦はさらにハイレベルになるのでは」などと期待しております。

（10 月 28 日の外野席での観戦者は、稲月喜一さん、稲月充子さん、佐藤貢一さん、豊山智明さん、行田健二でした）

行田健二（H4 経）

11 月 11 日、12 日の市民まつりへの参加は大成功

11 月 11（土）、12（日）、いこいの森公園を主舞台にした第 20 回西東京市民まつりが 4 年ぶりの再開となり、西東京三田会は 2 度目の出店をいたしました。

令和元年に初めて出店参加して 12 人もの新入会員があり、その意義が共有されていたので今年再開が決まるや、当西東京三田会内では参加することが阿吽の呼吸で当然のことと受け取られ役員会で市民まつり担当者も選ばれました。出店者説明会は 2 回あり両会ともに横田事務局理事に出席いただき、市民まつり担当者打合せ会は佐藤副会長のリードで事前に 2 度行われ、前回と違って組織的対応を心がけました。

天気だけは前回のように好天とはいきませんでした。11 月初めはまだ夏日が生じるような異常な天気でしたのに、まつり当日、そして 2 日目も、11 月中旬としての平年並みで曇天下寒いあいにくの天気となってしまいました。

まつりの全体の構成は従来どおりにほぼ戻り、野外ステージ、出店エリア、農業コーナー、工業コーナーほか諸コーナーのほか、子ども・環境ゾーンや行政ゾーンなどが設けられていました。出店エリアでのブース数は前回に比べ随分減り 129（H30 年 173、R 元年は 170）、前回に比べてブース間の隙間が随分感じられました。

パレードはほとんど公道の行進はなく隣接する小学校からパフォーマンスストリートを通過して公園内に入る約 200 メートルの行進、参加数も随分減じて 11 団体（H30 年 24、R 元年 23）でした。

人出はやはり急に寒くなったせいか元年時より少な目（西東京三田会のホームページの R 元年の記事および写真など参照）。それでも天気は 2 日間とも曇天ながら雨には降られず、何万人かの人出はあったのではなかろうかとみられました。

さて、西東京三田会、今回は 2 度目の参画です。ブース番号 124（元年はしんがりの 170）。今年は西東京三田会のほかに西東京稲門会、明治、法政、中央大学の 5 校で、元年の 8 校から國學院・東京国際・創価が撤退していました。前回はビッシリ 8 校が詰まり、稲門会とは離れていましたが、今回は稲門会と隣同士、大いに活性化する要因ともなりました。西東京三田会ブースは大いに賑わいました。

前回令和元年の当会ははじめて参加し、経験不足から周囲の校友会に比べ、ブースは少し貧相の感がありましたが、今回は新しい担当者が工夫を凝らし 5 校中最高の出来栄えでした。次の諸点で前回の当会ばかりでなく、今回の他大学をも凌ぐ格段の有意差を示しました。

① ブース内横面・奥面を最高に効果的利用

ブース 1 区画は間口 3.6m、奥行き 2.7m の

テント一張です。テントは布ですから飾り付けが難しい。元年には塾からいただく年度別三色三角旗を粘着テープで貼るなどしましたが、すぐに落ちてしまいました。今年は、会旗を奥面にそして A2 版で印刷したポスター（ホームページのトップページ）を横面にテントの梁からつるしましたが、それより威力を示したのが次の②です。

② 横面を飾る「軽い」額 4 面

絵画や写真などを飾る額は重く布製の面に固定するのは難しいが、軽い、A4 印刷写真を 2 枚張れる額、粘着両面テープで布製面に固定できるもの、これを 8 枚の諸活動写真と併せて用意してありました。諸活動の様子をよく広報することが出来ました。私はこの素晴らしさに感嘆しました。

③ 軽い追加丸椅子 5 脚

ブース 1 区画には机 2 台と椅子 4 脚が配分されています。まつりへの参加は、新入会者を得ることもあるものの、この場を利用しての会員相互ほかの交流も主目的です。関係者の出入りが多く、配分椅子だけでは足りません。この椅子 5 脚追加も素晴らしい対応でした。井戸端会議ならぬブース内懇談に花が咲きました。

④ 1 顧問から寄贈されたそろいのブルゾン着用で対応

シンプルな背中の「KEIO」の文字と胸元のペンマークで慶應義塾をアピールしました。

⑤ 塾からの資料取り寄せ

塾と連絡をとり取り寄せてくださっていました。3 種類の資料があり、その中でも六大学野球の慶早戦でリーグ優勝が決まる前週のスポーツ新聞は塾関係者でない方々をもブースに呼び寄せる切り札となっていました。

⑥電池式 CD プレーヤーによる塾関係の歌の BGM

元年時に周辺の大学でなされていたことを、元年時の様子を承知していた会員が提起し CD プレーヤーを持参してくださいました。隣の西東京稲門会ブースから流れる早稲田の BGM とでさながら慶早戦をも思い起こされました。

会員同士の懇談や新入会員獲得は上々の出来。事務局調べでブース立ち寄りの会員は、11 日 42 名、12 日 47 名でしたが、把握できなかった方もいたかもしれません。

そして、新入会員はなんと 10 人（元年時は 12 人）、これは他大学を確実に凌ぐ成果だったと考えられます。

前回、担当として 2 度の説明会参加から 2 日間のまつりに、そしてまつり翌日の会場清掃まで一通で関わった者として、まさに今回は頼りになるスタッフ連に導かれて、何から何まで大成功となっていたことを大変うれしく思っているところであります。

樋口明朗（S43 経）

市民まつり参加 5 大学交流会に参加しました

法政大学の声掛けにより、市民まつりに出店した 5 大学の交流会が 11 月 24 日（金）に田無市庁舎の食堂「いこい」にて開催されました。

参加大学は、中央大学、法政大学、明治大学、早稲田大学、慶應義塾大学の 5 大学です。当会からは、篠崎副会長、宮本副会長、佐藤副会長、大内副会長の 4 名が参加しました。他校の出席者は、中央大学 1 名、法政大学 6 名、明治大学 4 名、早稲田大学 6 名でした。

交流会は法政大学の佐藤さんによる司会で進められました。冒頭、西東京市の萱野副市長の挨拶があり、市民まつりの来場者は、11 日 4 万 5 千人、12 日 5 万人だったとの話がありました。また、余興として法政大学の志村さんによる二胡の演奏がありました。みなさん活発に交流し、市民まつりの反省や次回への意気込みなどが語られました。そして、次回の幹事として早稲田大学が指名されました。

宮本敬一（S46 工）

11 月 14 日カラオケ会が開催されました

11 月 14 日、定例会場のスナック JJ で 11 月度のカラオケ会を実施しました。

今回は初参加の 4 名を含め参加者 10 名で、16 時～19 時の 3 時間に「テネシーワルツ」に始まり「若き血」まで 42 曲を歌い切りました。

歌うことを強要しないルールです。歌うことに躊躇している方でも、飲み会大好き（飲み放題です)、にぎやか大好きな方など気軽に参加できます。

毎月第 2 火曜日を基本とし、12 月度は 12 月 12 日（火）が予定日時です。みなさんこぞって参集しましょう。

歌った曲は下記の 43 曲でした。

テネシーワルツ、十年桜、街、あいつ、佐渡の恋歌、旅人よ、上海ブルース、秋桜(コスモス)、風に立つ、虹と雪のバラード、大きな玉ねぎの下で、つぐない、倖せさがして、SACHIKO、あじさいの雨、霧の摩周湖、I came from 横須賀、俺たちの旅、夢で逢えたら、時の流れに身をまかせ、アメリカン・フィーリング、風雪ながれ旅、いつか雨上がる、ANAK（息子)、ダイアナ、なごり寿司、みずいろの手紙、ブルーシャトウを君だけに、池上線、長崎の鐘、想い出の渚、月亮代表我的心、想い出のサンフランシスコ、君たちキウイ・パパイヤ・マンゴだね、旅姿三人男、三百六十五?のマーチ、初恋によろしく、この木なんの木、カツベン節、粋な別れ、サライ、青い山脈、若き血

なお、今回の参加者は、牛島康朗、大内俊、佐藤貢一、中野秀夫、西野弘文、原護、皆川雅紀、宮本敬一、吉川潔・敏子の 10 名でした。

（注）初参加とは「復活カラオケ会」後で、今回は初期往時平成 20 年前後に 6～7 年カラオケ会をリードされた中野さんの参加がありました。

樋口明朗（S43 経）

第 39 回應美展に参加して

去る 11 月 18 日の土曜日に、銀座のギャラリー暁にて開催されていました第 39 回應美展に伺ってまいりました。

應美展は義塾のパレットクラブ主催の創作展で、パレットクラブ自体は来年で 125 周年、そして應美展は第 40 回を迎えることになります。

今回は、吉川さんが留守中にお邪魔し、令夫人がご対応して下さいました。来年も多くの方々が参加されますことを祈念しております。

大内（S57 経院）

11 月 28 日ゴルフ会が開催されました

11 月 28 日（火）当ゴルフ会は西東京稲門会ゴルフ会と合同で「第 3 回　西東京早慶校友ゴルフ会」を開催しました。

場所は、埼玉県の高坂カントリークラブ岩殿コース、参加者は 27 名でその内訳は当会から 5 名、それに小平三田会でゴルフ会幹事を務めている砂押正己さんが参加され三田会関係は計 6 名でした。一方西東京稲門会は 17 名、武蔵野稲門会から 3 名と東久留米稲門会から 1 名が参加され稲門会関係は計 21 名でした。

当日はもうすぐ 12 月を迎えるのにも拘わらず小春日和で、絶好のゴルフ日和でした。
80 歳台の方が 4 名参加されていましたが、合計 7 組 27 名は全員何の支障もなくラウンドを終えました。

午後 4 時から始めたパーティも最後に「紺碧の空」と「若き血」をお互いに肩を組んで熱唱し、ゴルフ会を楽しく終えることが出来ました。

森茂樹（S52 法）

12/10 麻雀の会が開催されました

2023 年度の麻雀の会は、5 月 21 日、8 月 20 日、10 月 15 日、12 月 10 日と 4 回開催されました。8 月の開催以降 3 卓を囲むことが出来るようになりました。今回の 12 月の最終戦は、コロナもさり、暖かい年の瀬のなかでの開催で、雀荘も久しぶりの満卓で活気に満ちておりました。最終戦には、13 名の会員が参加し、和気あいあいとした楽しい会となり、成績は牛島さんが 113 点を獲得して優賞、2 位佐藤さん、3 位伊勢さん、BB 賞は高梨さんが獲得されました。

2024 年は、2 月 18 日、4 月 21 日、6 月 23 日、8 月 25 日、10 月 20 日、12 月 15 日に開催する予定です。12 月 15 日の大会はグランプリ大会を兼ね、年間 3 回以上出席した方々を対象として、年間獲得点数の多い上位 3 名の方々を表彰します。

西東京三田会の麻雀の会は会員の交流、親睦を第一の目標としておりますが、指先のトレーニング、脳の活性化やトレーニング等も期待でき、会話、笑い、楽しさ通じ健康が増進するとも期待されております。優勝ルールは獲得点数による順位制ですので、初心者の方々も大変楽しめる会となっております。

是非皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

原護（S45 法）

12/12 カラオケ会が開催されました

毎月第2火曜日に実施しているカラオケ会は、12月度は2023年の最後です。
会員10名、会員の奥様2名、12名もの、年の最後を締める楽しい3時間でした。

歌われた曲は44曲、歌謡曲・演歌・POPS等多岐に亘り、言語も日本語のほか英語・スペイン語・中国語など国際色豊か。

店のママさんたちの、フィリピンのヒット曲「タガログ語版ANAK」の披露もありました。

参加者は、牛島康朗ご夫妻、大内俊、高梨勇一、中野秀夫、西野弘文、原護、皆川雅紀、宮本敬一、横田均、吉川潔ご夫妻でした。

曲目リスト

ホワイトクリスマス、虹と雪のバラード、神田川、遠い世界に、北国の春、野球小僧、恋のメキシカンロック、赤と黒のブルース、天城越え、くちなしの花、北の宿から、祝い酒、おゆき、Hawaiian Wedding Song、紅の舟唄、兄弟船、TSUNAMI、帰ってこいよ、想い出のサンフランシスコ、赤城の子守唄、そんなヒロシに騙されて、赤いハンカチ、霧の摩周湖、いい日旅立ち、ああ、グッと、伊勢佐木町ブルース、この木なんの木、長良川艶歌、長い夜、網走番外地、キエン・セラ、白いブランコ、傷だらけの人生、津軽海峡冬景色、幸せの一番星、朝の国から、海峡、銀座の恋の物語、月亮代表我的心、あの素晴らしい愛をもう一度、グッド・マイ・ラブ、ANAK（タガログ語）、サライ、若き血

樋口明朗（S43経）

新入会員との集い

渡邉秀夫様

師走に入ってからの夏日に近い土曜日の翌日、打って変わり夜半から北風が吹く少々寒い朝であった。日差しは出ており、昼までには多少気温が上がりそうに思われる。本日のイベントは、11 月上旬に「いこいの森公園」で行われた当会のイベントで入会された方の歓迎昼食会である。待ち合わせの場所に急ぐ、多少気持ちが前のめりになる。事前に決めてあった場所には幹事と本日のゲストである渡邉さんが既にいらしていた。簡単な挨拶を済ませ、3 人で決められたお店へ。

お店は幹事が事前に選んでくれたイタリアン。ドアを潜ると、美味しそうな香りに包まれる。間違いなく「期待できそう」な感じ。自己紹介の後、早速乾杯。本日のゲストは渡邉秀夫さん、S39 年文学部社会学科ご出身であり、長年サラリーマンとしてご活躍をされていらした、私達の大先輩に当たる。サラリーマン時代のお話を伺うと、日本を代表されるメーカーにお勤めであったが、その中で医療機器の分野でご活躍された。偶々私が良く存じ上げている分野であり、先ずはそこで意気投合。サラリーマン時代のお話、取り分け営業の責任者でいらしたことから、ご接待に類することは何でもされた由。ゴルフはもう少しでシングルの腕前、麻雀もこよなく愛された由。また、義塾時代にはボーリングの腕を上げられ、嘗ては未だボーリング人口が少ない頃とはいえ、日本を代表される選手であった。然し、数年前に病に伏されたことから、ボーリングのボールを持つことも難しく、助走の最後で脚を突っ張ることがかなわず、ボーリングは過去の思い出の中に残されたとのお話。現在は、奥様とお二人で楽しく生活をされているとのこと。

現在悩まれていることが 1 つお有りになるとのことで、それは自動車の運転免許の更新をすべきかどうかで悩まれているとのこと。奥様は絶対に返納を求めると思われているものの、ご自身では「未だ何とかなるかな」との期待をお持ちになられていることが凄く伝わってくる。更新まであと 1 年。それまでに然るべき決断が求められる。なんとなく私達も「更新」を期待したくなる。

当会に入られることをとても愉しみにされているご様子で、歴史散歩や麻雀会には是非参加されたいというご希望を持たれている。そして、経験されたご病気のためにも、体力の維持の必要を感じられ、ご自宅近くの「いこいの森公園」の散策を欠かさないとのこと。私達も見習わなくてはならないと強く思う。

当会には多くの方々が在籍されていらっしゃる。渡邉さんのような大先輩から義塾を卒業されたばかりの方々。私達は、先輩から多くのことを学ばせて頂くことが出来ると思う。そして、若い方々には、逆に様々なことをアドバイス出来るに違いない。そうした一連のことが、私達が住まう西東京で普通に行われることを期待したい。そうしたお話をお互いにして、店を後にした。「義塾の繋がりって、凄く不思議だよね・・・。先輩も、後輩もなく自然にこうしてお話が出来るん

だから。」と言われた渡邉さんの言葉が忘れられない。新年会でまたお逢いできることを約して帰路についた。些か冷たい風が頬に当たる。それも心地良い思いである。良い先輩に入会頂いた。

大内　俊（S57 経院）

開催予定の活動をお知らせします

2024 年 1 月以降に開催予定のサークル活動やイベント等をお知らせいたします。
まだ日程が決まっていないためご案内できませんが、グルメ会、麻雀会、ゴルフ会、カラオケ会、観桜会などの企画が進行しています。決まり次第、みなさまにご案内いたしますのでお楽しみに！

1 月 9 日（火）カラオケ会

新年最初のカラオケ会です。
まだまだお正月気分で楽しく集まりましょう！
歌うのは嫌い、だけど聴くのは好きという方も大歓迎です。決して無理強いはしませんので、思い切って様子見に参加してください。

日時：1 月 9 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円（飲み放題込み）

開催予定を毎月末か月始に連絡する予定ですが、前もって希望される方のみにさせていただきます。連絡希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

1 月 21 日（日）新年会

昨年度は新年会の代わりに年忘れ懇親会を開催し多くの方々にお集まりいただき、楽しい時間を過ごすことができました。今年度は恒例の新年会として開催いたします。令和元年新年会以来の新年会開催となります。おひとりでも多くの方に参加いただき旧交を温める機会にできるよう準備しています。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：1 月 21 日（日）13 時から 15 時まで
場所：墨花居 田無店
会費：5,000 円、同伴者 3,000 円、夫婦会員 8,000 円

まだ**出欠の連絡をしていない方は 1 月 6 日までに西東京三田会事務局**にお知らせください。
連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

2 月 13 日（火）カラオケ会

月 1 回の定例開催のカラオケ会のご案内です。
歌うのは嫌い、だけど聴くのは好きという方も大歓迎です。
決して無理強いはしませんので、思い切って様子見に参加してください。

日時：2 月 13 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円（飲み放題込み）

参加希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

2 月 18 日（日）麻雀の会

新年最初の麻雀の会を開催します。
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日時：2 月 18 日（日）13 時から 17 時ころまで
場所：西東京郵便局北側の「P ジャン」

幹事：原護 090-8807-7508　hara.mamoru08414@gmail.com

健康のページ

コロナ感染症新情報

中村邦彦（H3 医）

コロナ感染症が 5 類に変更されてから、メディアでコロナ感染症について報道されることも少なくなり、完全に終息したかのような印象を受けます。しかし 9 月の調査で COVID-19 は 10 万例を超え、その後は減少してきているものの 11 月時点の調査でも 5 万例を超えています。もちろん重症化する患者の割合は減少しており極度に恐れる必要はありませんが、油断できない状況は続いています。

現在のコロナ感染症での症状としては、咳（62.7%）、咽頭痛（60.7%）、鼻汁（44.3%）といった上気道症状が多くを占めています。一方で発熱や頭痛、強い疲労感、食事摂取量の減少、関節や筋肉の痛みなどの全身症状は減少してきております。また、ワクチン 3 回以上の接種例では、2 回以下の接種例に比べて症状を有する率自体が低く、全身症状の頻度も低くなり、症状がある場合は鼻汁や咽頭痛などの上気道症状が高頻度に見られたとされています。さらに 65 歳以上の高齢者では、全身症状がある例では重症化しやすく、上気道症状がある例では重症化しにくいことが分かってきました。高齢者では特に全身症状のうち、呼吸困難、食事摂取量の減少、強い疲労感の 3 症状の組み合わせが重症化のリスクが高くなります。ワクチン接種によって全身症状が低くなり、上気道症状が現れやすくなるのは、ワクチン接種によって上気道の粘膜機能が強化されていると言えます。つまり免疫機能が向上して、上気道でウィルスの侵入を身体が防いでいると考えられ、重症化しにくいことと辻褄が合います。

やはりコロナワクチンは接種を続けた方が良いようですが、これについても新しい情報が出てきました。コロナワクチンを接種する際、同側接種、対側接種のいずれも強い免疫応答が誘導されたが、初回投与時と同じ流入リンパ節を通過する投与経路を選ぶことで、2 回目の効果がより増強される可能性があると報告されました。つまり前回と反対の腕に接種した方が良いのか同じ腕に接種した方が良いのかということについては、常に同じ腕に接種した方が感染や重症化の予防において効果が高いということになります。

ワクチンの種類については、モデルナ社製ワクチンは接種後の副反応がやや強いような印象がありますが、一方、その効果についてはモデルナ社製ワクチン接種後に COVID-19 に感染した率はファイザー社製ワクチンよりも 14%低かったと報告されています。また第一三共社が、初の国産新型コロナウイルス mRNA ワクチン「ダイチロナ筋注」について国内製造販売承認を取得しました。このワクチンは現在流行している XBB.1 系統には対応していないため、まだ供給は予定されていませんが、第一三共社はできるだけ早く対応したいとしており、選択肢が増えることが期待されています。

中島飛行機について

会員寄稿

私は昭和24年に武蔵野市吉祥寺に生まれ、昭和53年から西東京市に住んでいます。両方とも戦時中に武蔵野市にあった中島飛行機とは縁が深いです。私は戦後派ですが、父との関係から繋がりは切り離せません。

父は大正2年の生まれで、昭和18年に中島飛行機に入社し、経理の仕事をしていました。住んでいたのは旧田無市の中島の下宿住宅の一角で、現在私が住んでいる所です。以前は旧社員の方が多数住んでおられました。父が解散処理のために売り出された土地を購入しました。昭和53年に建て直して私が住むようになった以前の社宅の玄関を入った正面の壁には、戦時中の米軍機による機銃掃射の弾痕が残っていました。昭和20年4月の空襲の時だったのかもしれません。田無駅北口駅前広場にモニュメントが建っています。

父は敗戦を浅川の地下壕で迎えました。爆撃で工場が破壊されて、経理の仕事処ではなく、疎開した製造機械の設置作業の手伝いをしていました。私も以前に入ったことがありますが、素掘りのトンネルには補強の痕跡もなく、岩盤に触れると岩が崩れるような急拵えの危険な所でした。空襲警報が鳴ると、トンネルから飛び出して近くの林に逃げ込んだそうです。

武蔵野の工場でも、空襲の度に地下のトンネルや現在の武蔵野陸上競技場（武蔵野三中の時に陸上競技会で使いました）の土手の下に作られた防空壕に逃げ込んだと話していました。私は昭和49年に旧日本電信電話公社の武蔵野電気通信研究所に入社して7年間働いていました。苛烈な爆撃でも残った研究棟の5号館の5階が研究室でした。今はなくなった2号館の地下に降りると、廊下の一角に大きな閉鎖された扉があり、その向こうに地下トンネルがあると教わりました。

父は敗戦後の解散になった中島飛行機の事務処理を現在の三鷹の富士重工にあった中島研究所で手伝っていた時に、新設の会社に残るように勧められましたが、結核に罹っていたこともあり断って清瀬の療養所に1年間入りました。退所後に吉祥寺の駅前のハーモニカ横丁の一角に食料品の店を出しました。店の屋根裏で寝起きしていたこともあるそうです。戦後の混乱期に商売は順調で、同じく駅前に建てた自宅にも下駄屋（中島の同僚が手伝ってくれました）を出しましたが、昭和23年母と結婚した頃から、結核の後遺症に悩むようになりました。私が生まれた頃に下駄屋（私が育った家です。平成になって駅前の区画整理のために取り壊されるまで、家の内装に下駄を並べる棚がそのまま残っていました。そこに玩具屋の商品を並べて倉庫にしていました）は廃業し、食料品の店は玩具屋に替えました。「おもだかや」といいました。駅前通り（現在のサンロード）にあった和菓子の店から屋号をもらいました。私が物心付いた頃には、専ら母と手伝ってくれた叔父の二人でその店を切り盛りし、父は自宅の万年床の上での、得意な経理専門で算盤を始終動かしての生活を20年くらい続けていました。

私も小学生の頃から、店の手伝いをさせられていました。身の回りに玩具が山のようにあるのに、手に取って遊べないのが不満でした。友達やその母親が買いに来てくれましたが、友達が遊んでいる時に、遊びに行けないのも辛かったです。そんなある日、外人さんが来店して、ケース入りの大きな雛人形を買ってくれました。帰国する日本土産にするそうです。家まで運んでくれと言われ、ほとんど初めての経験でしたがタクシーに乗せられて、グリーンパーク（現在は武蔵野中央公園になっています）の米軍宿舎に行きました。宿舎はとても大きな建物で、家族で住んでいた部屋は家財道具が撤去されてガランとしていましたが、柱や壁は頑丈に出来ていました。キャンディーを貰って帰りました。ゲートでの出入りの検問は相当厳しかったと思います。

父は昔のことは余り話してくれませんでした。苦しいことだけが多かったと思います。中島飛行機の社員だったことを示す遺品は社員章と将棋（相当強かったようです。今でも愛用の大きな将棋盤があります。父と何かやった思い出は将棋くらいです）クラブの会員証、そして今では何の役にも立たない中島飛行機の社債などですが、西東京市の介護施設緑寿園に入っていた父が平成 11 年に亡くなった時に九段下の昭和会館に寄贈しました。武蔵野市を中心に活動している私も会員であり、フィールドワークにはよく参加しています「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の発足まで長生きしてくれれば、いろいろな話を聞いてみたかったのですが、残念です。その活動を何かの形で西東京三田会の活動に取り入れたいと常々思っています。

高橋信一（S47 工）

樋口前会長から寄贈いただきました

この度、樋口明朗前会長（S43 経）から「西東京三田会横断幕」3 張の寄贈いただきました。この場をお借りして、みなさまにご披露するとともに、樋口様に御礼申し上げます。
この横断幕はすでにグルメ会、連合三田会大会、西東京市民まつりなどで活用させていただいております。今後も各種サークル活動や公式行事等で掲示いたしますので、会員のみなさんも目にする機会も多いと思います。

また、会としては大切に扱い、末永く使えるよう管理してまいります。

樋口様、どうもありがとうございます。

事務局 横田均（H1 政）

坂口元会長から寄贈いただきました

この度、坂口元会長（S55 経）から「オリジナルブルゾン」10 着の寄贈をいただきました。この場をお借りして、みなさまにご披露するとともに、坂口様に御礼申し上げます。
このブルゾンは西東京市民まつりで初披露されました。11 月 11 日、12 日の 2 日間、係りの皆で着用しました。義塾の「Blue,Red and Blue」をイメージしたデザインとなっています。
また、会としては大切に扱い、末永く使えるよう管理してまいります。
坂口様、どうもありがとうございます。

事務局 横田均（H1 政）

編集後記

今回の特集記事は『幻の小金井キャンパス　小金井から矢上に引き継がれたバトン』です。この内容は文系の卒業の方には聞いた事の無い話だと思いますし、ましてや理工系の卒業の方でもこの特集に書かれている歴史や背景をご存じの方は少ないだろうと推察しています。今から 90 年も前に新学部が計画され、又、塾員の大先輩の応援により前身の藤原工業大学が設立され戦後に慶應義塾に寄付されたその後の経緯はまさに時代の変遷を感じさせるものが有ります。このような歴史が有る事は、学生時代には知る由もなく当会のニュースレターといった親睦団体の刊行物から知ることが出来るという事はまさに三田会のパワーを感じます。又、改めて学生時代からの自分の人生を振り返るきっかけにもなると思います。是非、会員の皆様からの特集記事の要望やご意見が有ればと期待をしています。

コロナ禍が落ち着いてきた昨今ですが、それに呼応するかの様に当三田会のサークル活動も活発化してきたようです。カラオケ会、麻雀の会、写真・作品展、グルメの会、神宮野球応援会、市民まつり、ゴルフ会など３ヵ月の間に多くのサークル活動が報告されています。今まで家の中にばかりこもっていましたが、外に出て多くの会員の方が趣味や余暇を楽しんでいる様子が判ります。読者の皆様もこれを機会に興味のあるサークルにご参加されては如何でしょうか。各サークルでは大勢の方の参加をお待ちしています。是非、幹事の方にご一報をお願いします。

編集委員

丑山佐枝子、行田健二、森茂樹、（井上京子＊）、大内俊、横田均、高橋幸三

令和６年１月１日